

1110 | 複合的表現II

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、永井研治教授、袴田京太郎教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、山本明比古講師、吉川民仁講師

授業の概要と目標

「場所と観察と表現」をテーマとする。ここでは身の回りの場所や空間をよく観察してやることから始める。普段見慣れている日常の空間を形作っている物の位置をずらしたり、変形したり、何かを付け加えたりすることによって、思いがけない非日常的な空間が表れたりする。この様な経験を表現へと結実させてゆくプロセスを学ぶ。

通信授業では自分の身の回りの素材や生活空間をもとに、平面による制作とし、面接授業では平面に限らず様々な素材やメディアを使用し、環境と造形表現の幅広い在り方を模索する。

課題の概要

○通信授業課題「場所と観察と表現」

1-1 スチレンボードを使って正六面体を作成し、身の回りの場所にそれを配置した場合と、配置しない場合の状態をクロッキーする。

1-2 「1-1」で正六面体がある場合のクロッキーから 1 点選び、それをもとに水彩または油彩で制作する。また、作品について 200～400 字で解説する。

○面接授業課題「場所から生まれるもの」

1-1 「場所から生まれるもの」をテーマにインスタレーションによる表現を試みる。教室内やその周辺で作品の基礎となる場所を設定し、そこからイメージされるものや、その場所の空間的な特性を活かしたり、変質させてしまうようなものを、様々な素材を用いて制作する。また、ドローイングから実制作にいたる過程を写真で記録しながら、記録集を作成する。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『複合的表現I・II 平成 29 年度』の「複合的表現II」を参照。

教科書『複合的表現—絵画からの展開—』を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 2 章「油彩画の素材・技法と表現」、第 3 章「水性絵具」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

[面接授業]

第 1 日	午前：前提講義およびドローイング	午後：ドローイングおよび場所選び
第 2～4 日	午前：制作	午後：制作（中間指導）
第 5 日	午前：制作	午後：制作および記録集制作
第 6 日	午前：記録集制作	午後：採点・講評・撤去作業

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3～4 年次

[履修条件] 「複合的表現I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科各コース選択科目。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005 年）

学習指導書：『複合的表現I・II 平成 29 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）